



■ 新年のご挨拶 JVCKW シニアクラブ 会長:高石 勝巳

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年の総会で菅沼前会長からバトンを引き継ぎました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。今年、令和2年(2020年)は十二支の始まりの子年、そして東京オリンピック・パラリンピックが開催される年です。前回のオリンピックが開催された昭和39年(1964年)は、私がビクターに入社した年で、当時のことはかなり鮮明に覚えております。

柔道の神永、バレーボールの東洋の魔女と大松監督、マラソンの円谷など悲喜こもごもの場面の記憶があります。今度のオリンピックではどのようなヒーローやヒロインが誕生するのでしょうか、非常に楽しみです。

この50余年の間に同じ競技であっても質的に大きく変化した問題があります。それはプロとアマの境界(無境界)の問題です。五輪は本来「参加することに意義がある」はずでしたが「勝つこと・強くあることにのみ意義がある」に変質したように私には感じられます。

そのためオリンピックが本来持っている「幾ばくかの情緒」感が無くなってしまいました。

☆ さて、今年も世界はトランプ米国大統領の独壇場になるのでしょうか。

「治にいて乱を忘れず」といいますが、治にいて乱を起こし、後は「ディールだ、ディールだ」と強権を振るう。こんなことがまかり通って世界が揺れ動いた3年間でした。

また、政敵に対してはフェイクニュースを駆使して攻撃し国民を分断してしまう。今年は大統領選挙があり、トランプ氏有利の形勢の下、憂鬱な1年になりそうです。

☆ 日本では「少子高齢化」による様々な問題が厳しさを一層増してきています。

高齢化は我々がその渦中にありますから問題はよく理解できますし、社会保障費などもある程度予測の範囲内で推移してゆくでしょう。少子化について昨年末に厚労省から衝撃的な数字が発表されました。2019年の出生数が86万人(50年前は約200万人)で前年より5万人余り減少したとのことでした。またこれによる人口の自然減は51万人となって、日本は本格的な人口減少社会となりこれを押しとどめることはできません。

今後の主要政策はこれに如何に対応するか、ということになるでしょう。(p2に続く)

☆ 私たちのシニアクラブ会員の平均年齢は76歳です。

組織全体で見ると、ほとんどの会員が後期高齢者となっており「あれもこれもは許されず、あれかこれかの選択となる」という心構えがこれからは必要になります。そしてより良い選択をするためには「感動係数」を高めることが必須です。人生100年時代に向かって「健康寿命」を延ばし、感動係数を高めるべく当会の活動を進めたいと思っております。

会員の皆様のご健康・ご活躍をお祈りいたしますと共に、シニアクラブに対しての皆様のご理解・ご支援を今年もよろしくお願い申し上げます。

■トピックス：令和とワンチーム

昨年末、毎年恒例の世相を現す漢字の発表があり、TOP3に「令、新、和」と並びました。まさに新時代、令和が国民の意識の中に浸透してきたことを示していました。

4月に新元号「令和」が発表された瞬間、「令」は「命令の令」と捉えて違和感を覚えた人も多かったのではないのでしょうか。

政府はこの発表後、この文字には「清い、良い」という意味があることを伝え、皆が「良い和を保って大輪の花を咲かす」ことを願っての元号であると説明していました。



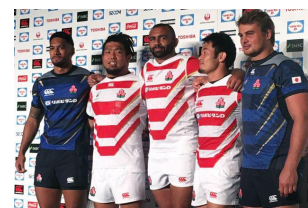
昨年、「ラグビー・ワールドカップ」が日本で開催されました。ルールが良く分からず、日本ではそれほどファンがいるとは思っていませんでしたが、結果はご承知の通り、予選を勝ち抜くうちにラグビー熱は一気に盛り上がり、熱狂的な応援が繰り返されました。

特筆すべきがこの応援する人たちの気持ちだったと思います。

出場した各国から多くの応援者が集まりました。自国を応援するのは当然ですが、試合終了後はまさしく“ノーサイド”、それぞれ敵味方関係なく観戦者間で友好を深めていたようです。そして年末には丸の内で日本代表選手たちのパレードが行われ、狭い通りには5万人ものファンがあふれて再び大きな声援を送っていました。

昨年の流行語大賞はこのラグビー日本代表が掲げたスローガン「ワンチーム」でした。

令和が「良い和」を願っての元号であれば、この「ワンチーム」もまったく同義と言えるでしょう。ワンチームは日本チーム選手間のスローガンだけではなく、各国の選手・応援団全体のスローガンとなったのではないのでしょうか。令和も全世界に波及してもらいたいものです。



■事務局から（シニアクラブ事務局業務について）

1年前のシニアクラブ便りのこの欄にも書きましたが、労組本部に委ねていたシニアクラブ事務局業務を出来る範囲で独自に行うようになって1年が経過しました。

それ以前いかに労組幹部にお世話になっていたかということを十分に認識した一年です。

会員への情報伝達に、メールを利用する機会が多くなり、メールを利用しない会員の皆様には出来るだけご不便をおかけしないように心がけているつもりですが、いきわたらない部分があればご容赦ください。皆様からのご意見をお待ちしております。

事務局長 田代 周